

認知症を理解する

認知症とは？

内容

□認知症を理解する

1. 認知症とは？
2. 認知症の症状
3. 中核症状

1 『認知症とは？』

厚生労働省のHP

認知症とは「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」をいいます。

WHO（世界保健機関）の定義

- ・いったん発達した知能が、様々な原因で持続的に低下した状態（年をとってもの忘れがひどくなり、生活に支障が出ること）。
- ・認知症とは、通常、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能の障害からなる症候群である。
- ・ごく普通に社会生活を送ってきた人が、主に老年期に慢性の脳機能障害に陥り、判断能力等が異常に低下して社会生活に支障をきたす「認知（知能）障害」です。

認知症とは（介護保険法上の定義）

（認知症に関する調査研究の推進等）

第五条の二 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症（脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。）に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

ウィキペディア

・認知症（にんちしょう、[英](#): Dementia、[独](#): Demenz）は、後天的な[脳](#)の器質的障害により、いったん正常に発達した[知能](#)が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり、運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態は[知的障害](#)、先天的に[認知](#)の障害がある場合は[認知障害](#)という。[犬](#)や[猫](#)などヒト以外でも発症する。

認知症とは

（キャラバンメイト及び認知症サポーターテキストより）

いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障害が起こり、生活する上で支障が、おおよそ6カ月以上継続している状態

その1

いろいろな原因で脳の細胞が 死んでしまったり

脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく

原因となる疾患

約70～100

5 認知症の原因疾患と発生機序 症状及び対応のポイント

1) 原因疾患と発生機序

・神経変性疾患:脳内の神経細胞の脱落や異常蛋白の蓄積などにより発症する認知症	アルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病、大脳皮質基底核変性症、前頭葉側頭葉変性症、進行性核上麻痺、ハンチントン舞踏病
・脳血管障害: 血流が少ない、遮断されることによって発症する。	脳梗塞、脳出血、ビンズワンガー病
・その他	アルコール脳症、薬物中毒、脳炎髄膜炎、クロイツフェルトヤコブ病、進行麻痺
・治療や改善が望めるもの	慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、甲状腺機能障害、肝性脳症、良性脳腫瘍、ビタミンB1、B12、ニコチン酸の欠乏

10

発生機序

脳神経細胞の変性（神経変性疾患）

脳神経細胞が死滅、脱落による萎縮（アルツハイマー病）、変性の起きた部位や病理的变化（レビー小体病など）によって、脳のネットワークが壊れ機能しなくなる。

脳血管障害によるもの

脳の血管が梗塞や出血などを起こすことによって、血流が遮断や減少の結果、脳細胞が死滅や機能低下することによってネットワークが壊れ機能しなくなる。梗塞や出血が繰り返されれば、ダメージが大きくなる（階段状的に悪くなる）。

その他

ビタミンの欠乏、アルコールの取りすぎや薬物の摂取、ホルモンの不足、病気や障害の後遺症などで、脳神経細胞がダメージを受けネットワークが壊れ、機能しなくなる。

11

2)症状及び対応のポイント

アルツハイマー型

認知症

- 直線的に進行、記憶障害が強い、自然な慣れ親しんだ環境や状況でできることが多い。初期では役割を持つ。安心できる場の提供。重度では身体面への配慮が重要

レビー小体型

認知症

- 直線的に進行、幻覚やパーキンソン症状が強い。パーキンソン症状・心理的ケアが必要。転倒に注意。幻覚に対しては否定しない。早期治療、専門治療が必要。向精神薬の副作用が出やすい。

脳血管性

認知症

- 段階的に進行。廃用性、脳梗塞などの予防、運動障害、失語、言語障害などに対するケアが必要。物忘れはあっても比較的 understanding や判断力は保たれている。残存機能が多く、習慣的な事は可能。

前頭側頭型認知症 (ピック病)

- 問題行動は静止しがちであるが、むやみに止めない。常同行動などを利用したケアを行う。安心できる人とのコミュニケーションにより特異な行動が落ち着いてくる。

12

《認知症介護の基本原則》

ゆったりと、自由に、ありのままを受け入れる

自我や自尊心、羞恥心、感情を傷つけない

信頼関係を築く、一人にしない、無視しない

「してあげるケア」から「一緒にする、過すケア」へ

生活のリズムを整え、残された力で暮らしの喜びと自信を

なじんだ環境の“もの”、“こと”を大切に

地域や自然と触れ合いながら、感情の交流を豊かに

13

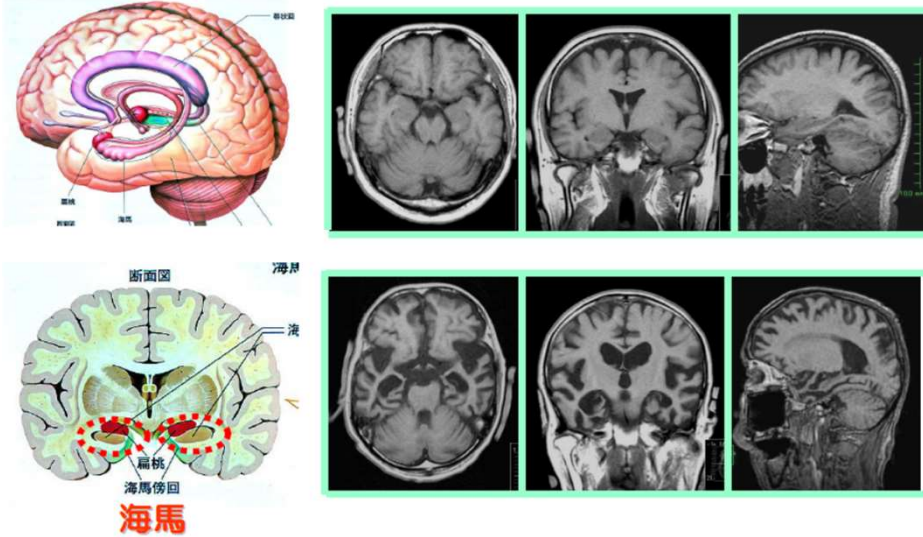
その2

脳の司令塔の 働きに不都合が生じ

脳の器質的な変化により

脳という器が壊れてゆく

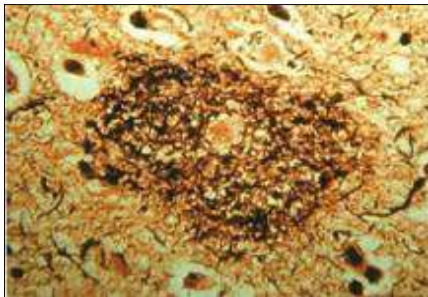
アルツハイマー型認知症の脳萎縮



15

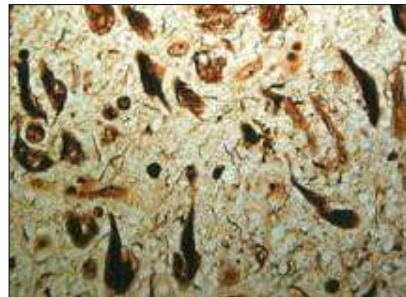
アルツハイマー病に特徴的な病変 ～老人斑と神経原線維変化～

老人斑



主成分：アミロイド β 蛋白 ($A\beta$)

神経原線維変化



主成分：異常リン酸化タウ蛋白

16

その3

さまざまな障害が起こり

日常生活に支障が生じる程度にまで

知的な能力が変化してゆく

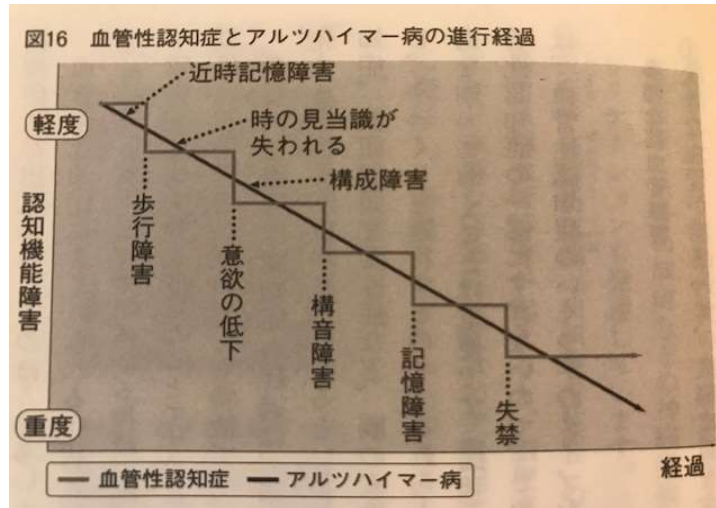
その4

生活する上で支障が
おおよそ6カ月以上継続している状態

記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう

これまでできていたことが
できたりできなったりと
困難と思える状態へと向かう

血管性認知症とアルツハイマー病の進行経過



池田学著 認知症 専門医が語る診断・治療・ケア 中公新書より出典

認知症とは

(キャラバンメイト及び認知症サポーターテキストより)

いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障害が起こり、生活する上で支障が、おおよそ6カ月以上継続している状態

2 『認知症の症状』

中核症状について

認知症の症状

- **中核症状とは**
- 行動・心理症状とは
- その他身体的症状

3 『中核症状』

中核症状（認知機能の障害）

1 記憶の機能（記憶の障害）

- ・ 思い出す、覚える機能

2 見当識の機能（見当識の障害）

- ・ 時間や場所や人の見当をつける機能
- ・ 物の名前を見当をつける機能

3 理解・判断機能（理解・判断力の障害）

- ・ ものごとを考えたり判断する機能など

4 実行機能（行為／認識／言語など）

- ・ 生活するための行為（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・ 言葉で伝えること
- ・ 字が書くこと
- ・ 計算をすること

5 その他（感情表現の変化など）

認知症というのは

認知機能の障害が複雑に絡み合うことによって
生活がうまい具合にいかなくなってゆくことをいうのです

その人の持つ
認知症をケアするということは

生活をベースに
どの機能等が複雑に絡み合っ
てうかかないのかを見極めながら
支援してゆくことである

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。
た。